

私と介護の出会い



石山恵理^[いしやま・えり]
介護老人保健施設さくら苑(愛媛県)

はじめに

私は2021年7月にさくら苑に入職しました。この仕事に出会う前は専業主婦をしていましたが、子どもが大きくなり、何か仕事を始めようと考えたときに、小さいときからおばあちゃん子でお年寄りとお話をするのが好きだったことを思い出したことがきっかけでした。

初めて介護の仕事に携わるなかで、これまで私が経験したことや感じたことについてご紹介します。いまこれを読んでくださっている皆さまは、私より経験豊富な方たちがほとんどだと思いますが、最後までご一読いただければ幸いです。

いざ入職!

仕事を始める前の私の介護に対する個人的なイメージは、オムツの交換や入浴、お食事のお手伝いをするといったイメージでした。いざ入職すると、数多くのマニュアルや、各種委員会の活動、毎月の研修など、知らないことがたくさんあり、驚きました。

初日に、上司から老健施設のていねいな概要説明を受けるなかで、「あれ?老健施設はお年寄りの方がずっと入所できるわけではないんだ」と感じたことを覚えています。当施設は2020年5月から超強化型となっており、在宅復帰・在宅療養支援のための施設であることを実感しました。

はじめの2週間は、ご利用者のお名前やマニュアルなどを覚えることで一生懸命でした。その後、リハビリ専門職からトランスファー(移乗)の指導を受けたり、上司と一緒にさまざまなケアの現場を見学したりしました。

いざ実践!

ひとつおりの研修を終えてから、上司より「実際に

ケアをしてみましょう」と許可が出て、ドキドキの初実践へ。

まず、上司がご利用者へ説明し同意をいただいた上で、初めてのオムツ交換をしました。準備物品や手順、声かけのやり方など、教えてもらっていたので自信はあったのですが、いざ実践となると、陰洗ボトルを忘れ、清拭タオルを忘れ、挙句、「次はこうするんじゃない?」とご本人に言われる始末…。「こんなはずじゃなかったのに」と落ち込みましたが、上司は優しく言葉をかけてくれました。落ち着きを取り戻し、次のご利用者のもとへ。その方からは上手にできたとほめてもらえました。

しかし、次の問題はトランスファーでした。声かけを行い、ご利用者も了解した上で臨みますが、いざ端坐位になった途端、ご利用者が両手でギュッと私の両腕をつかみます。明らかに不安に思っていることが伝わりました。

そこで、「大丈夫ですよ。しっかり私につかまってくださいね。安心してください」と声をかけてからトランスファーを実践。すると、無事に移っていただくことができ、ご利用者からは「上手だね」と声をかけていただきました。

このとき、感謝の言葉をかけていただいて初めて、「この仕事を始めてよかった」と心から思うことができました。それまでは覚えることに必死で感情表現も上手にできませんでしたが、ようやく緊張が解け、全身の余計な力がやっと抜けました。

次は食事介助の実践です。主食、副食と1品ずつメニューの説明をし、ご本人のペースに合わせて順調に介助を行っていましたが、サツマイモを拒否されてびっくり。理由を聞いてみると、「昔食べすぎて嫌いになった」と言われ、少し納得しました。「サツマイモといえば高齢者の好物だろう」などと思って